

毎年十二月男拂として、神職中定まつた家柄のもの、潔齋し、晦日の夜松明を照らし、社殿では目に綿を當て、手さぐりに掃除をなして歸る例であつた。この社殿は二十一年目に造替し、大宮司といへども猥りに近づくと許されなかつた。

ケタノミヤウタアハセ 氣多宮歌合 一冊。延久四年三月十九日國司通宗朝臣於社頭合之とあつて、藤原道宗は當時の能登國司たり、社頭は即ち氣多神社である。群書類從卷百八十二に載せられる。

ケタホングウ 氣多本宮 鹿島郡所、口に在つて、今は能登生國玉比古神社と稱する。式内等舊社記に、『氣多本宮社。所口村明神野鎮座。往古以來小丸山社殿有之處、天正年中遷座于今地。一宮氣多大神之本宮也。故毎年二月午日有神幸之式。蓋式外之舊社也。』と見えるが、神社叢錄には、當社を以て式内の能登生國玉比古神社に當て、居る。能登名跡志には『所口氏神氣多本宮は所口村にあり。小名に神明野と云ふに建給ふ。一國府の惣社にて、能登生國玉比古神社是也。御社領十二石、神主船木氏兩家あり。昔は社領千石、兩部習合にて社人・神子・社僧等多く有し也。別當所口寺とて、國分寺にて有りしを、今の地へ兵亂に中絶ありしを移し奉りし也。今も神主入口に一國一宮國分寺と札打あり。廻國納經は此處に納る也。毎歲二月初午、一宮氣多大神宮御幸あり。色々古式不思議の奇瑞等あり。又當社祭禮は毎年三月十三日也。氏子中歌舞伎などあり。其外年中神事多し、賑はしきこと也。六月晦日御手洗川にて御祓の大祓あり。依て晦日川と云ふ也。』と記する。

ケタホングウエング 氣多本宮縁記 一冊。享保十六年に鹿島所、口なる氣多本宮神職の書いた縁起で、貞享二年の由來書に據つて一社の傳説を記したものである。この頃から當社を式内能登生國玉比古神社であると主張し初めたことも見える。

ケタホングウキ 氣多本宮記 一冊。能登氣多本宮記ともいふ。鹿島郡所、口なる氣多本宮の縁起で、その古傳説を漢文で記載したものである。寛文三年頃の撰述であらうが、作者は判らない。

ケタミコジンシヤ 氣多御子神社 延喜式神名帳所載江沼郡に氣多御子神社がある。式内等舊社記に、『氣多御子神社。式内一座。鎮座地未詳。』とし、神名帳考證には文德實錄の天安元年九月壬寅に加賀國正六位上治田若御子神授從五位下。とある治田を氣多の謬としてゐるが、別に據があるとも思はれぬ。今同郡領見に氣多御子神社はあるが、それはもと神明社と言つたものを、明治六年領見社と改め、十二年更に今の名に改めたものである。

ケチエンジ 結縁寺 ↓ハチマンシヤ 八幡社(石川)。
ケツガイウンエイ 傑外雲英 曹洞宗の僧。能登輪島の人。鈴木氏。邑の蓮江寺に投じて祝髮し、總持寺に出世し、加賀の桃雲寺に住し、慶安二年金澤の大巖寺を起し、三年寶圓寺七代に住し、萬治元年隱居、延寶元年二月廿七日示寂した。

ケツカイザン 潔界山 鳳至郡神道(今栴生)にある。能登名跡志に、『潔界山とてあり。松栢茂りたる高嶺なり。諸天王の巨石數千あり。皆建石になりてあり。麓に前立として長三間許幅二尺許厚三尺許の巨石あり。是より内は女入ることならず。牝鹿さへ入らず。此の前の田を舞臺といふ。昔下の毘沙門とて大社のありし時、歌舞伎ありし所といへり。俗に石佛といへり。』と記し、又文化の書上に、『神道村に高嶺あり。石佛山と唱申候。其山の内に巨石の立石有之。』ともある。石神であらう。

ケツカインシヨウズセツ 結階指掌圖説
高橋富季著、青木秀枝補。選叙令の長上六考の註解で、朝廷の諸官が恪勤の功勞によつて、逐次位階を進められることを、圖によつて簡明に記したものである。著者は田中躬之の門人で、後に名を富兄と改めた。

ケツカンギコウ 月潤義光 曹洞宗の僧。越中の人。白子氏。初め法を正叔に受け、羽咋郡白瀬豐財院の十一代に住した。最も大般若經を尊崇し、自ら手指を刺して血を流し、貞享二年四月より初めて、元祿九年十一月に至る間に三百一巻を書寫した。月潤は是より先、元祿元年三月羽咋郡矢駄村より聖觀音・十一面觀音・馬頭觀音の三木像を豐財院に移し、七年七月越中氷見光禪寺に移つたが、その荒廢した堂宇を復興し、同十五年九月示寂した。

あり。皆建石になりてあり。麓に前立として長三間許幅二尺許厚三尺許の巨石あり。是より内は女入ることならず。牝鹿さへ入らず。此の前の田を舞臺といふ。昔下の毘沙門とて大社のありし時、歌舞伎ありし所といへり。俗に石佛といへり。』と記し、又文化の書上に、『神道村に高嶺あり。石佛山と唱申候。其山の内に巨石の立石有之。』ともある。石神であらう。

ケツカイン 月光院 前田利政の女で、利常に養はれた某姫の法號。

ケツコウイン 月光院 加賀藩主第十二代前田齊廣の子爲三郎の法號。詳しくは月光院玄霜正海童子。

ケツコウイン 月光院 鳳至郡中居南に在つて、眞言宗に屬する。能登名跡志に、『南村氏神は山王權現也。神主四柳氏。別當醫王院・觀音院・蓮臺院・月光院四ヶ寺年替り也。』と見える。文中に四ヶ寺とあるは、一乘院と共に五ヶ寺であらう。大正七年月光院に同部落の蓮臺院を併合した。

ケツザンドウイツ 傑山道逸 曹洞宗能登石雲寺の僧。業を季雲に受け、天叟順孝に師事し、永正元年總持寺に出世し、心源寺・石雲寺等に歴住し、永祿八年五月八日八十六歳を以て寂した。

ケツシユウオシヨウイロク 月舟和尚遺錄
二冊。寶永二年沙門曹源編。大乘寺月舟宗胡の語録で、その行狀をも添へてある。

ケツシユウコハク 月嘯虎白 曹洞宗の僧。加賀の人。金澤の寶圓寺傑外室中の上首と稱せられ、出で、總持寺に出世し、大巖寺に移り、萬治三年寶圓寺八代に住して頽廢を改めた。天和元年丹嶺祖裏に席を譲り、元祿十二年八月二十日示寂。

ケツシユウソウコ 月舟宗胡 石川郡曹洞宗大乘寺廿六代の住持。白峰玄滴の法嗣。肥前武雄の人。姓は原田。業を圓應の華嶽に受け、播磨の雲龍寺に板首の職を領し、次いで總持寺に瑞世し、後三河の長圓寺に寓し、寛文十一年大乘寺に住するに及び中興の組と稱せられた。延寶八年大乘寺を辭し、禪定寺・禪德寺・興禪寺・清圓寺・西來寺に住し、元祿

ケタ—ケツ